1.　事業概要

1.1　目的

九州における AT への関心はまだ低く、欧米豪をターゲットとした魅力あふれる AT コンテンツが乏しいことから、ATWS 開催に先駆け実施される Pre Summit Adventure（以下、PSA）に参加する海外のバイヤーやメディアに、九州の AT コンテンツを体験してもらうため、本事業では、広域連携 DMO である（一社）九州観光推進機構を中心とした観光地域づくり法人等と連携し、「Enjoy my Japan グローバルキャンペーン」に活用できる質の高い商品の磨き上げと造成並びに受入体制の整備に取り組む。

1.2　業務概要

事業名：令和２年度　訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業「九州におけるアドベンチャートラベル商品造成および地域コーディネーター育成のモデル事業」

事業対象：鹿児島県屋久島、熊本県阿蘇・宮崎県高千穂地域

期間：令和２年７月１０日（金）から令和３年３月２６日（金）

図 1　地図

1.3　業務内容

事業内容を以下に示す。

①　AT 商品造成

各エリアで AT の要素を含んだ九州ならではのストーリーを持った、体験価値を高めるコンテンツの新規開発及び既存アクティビティなどの磨き上げを行うために検討会を開催・運営し、各エリアで開発されたコンテンツを組み合わせた AT 商品の検討、販売に向けた整理、造成等を行う。なお、検討会においては、AT に深く知見のある有識者による講演を開催する。

また、検討会では、AT コンテンツに同行するガイド育成（英語）を行うため、AT 旅行者に分かりやすいガイド内容やガイドに必要なツールの検討も行う。

②　各エリア地域コーディネーターの育成

各エリアの地域コーディネーターを育成するために、（１）AT 商品造成のための検討会参加に加え、それぞれの地域コーディネーター候補者を他方のエリアに派遣し、両エリアの良い点、悪い点を共有し魅力相互向上を目指す。

③　ATTA 関係者の招請

AT 推進や PSA の実施にむけて、各エリアのコンテンツやコース設定等に関する現状の課題や改善案等の提案（コンサルティング）、地域コーディネーターの課題抽出のため、ATTA 関係者を招請する。

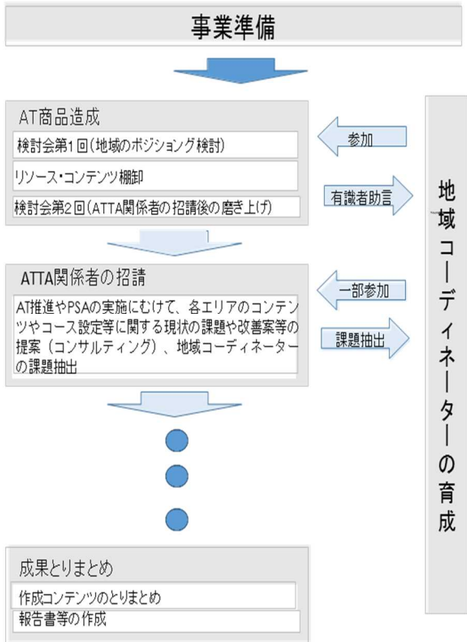
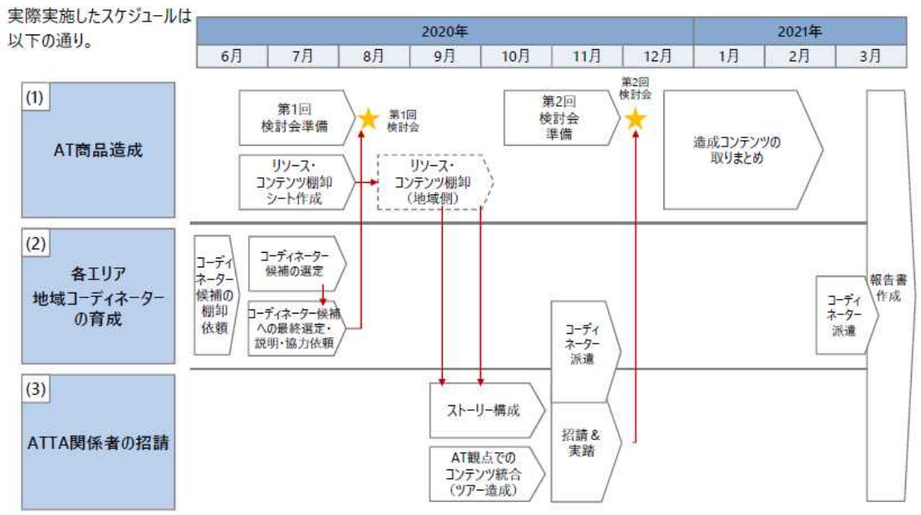


図 2　フロー図

1.4　事業工程

本事業の工程を以下に示す。

表 1　事業工程表



1.5　体制図

体制図を以下に示す。

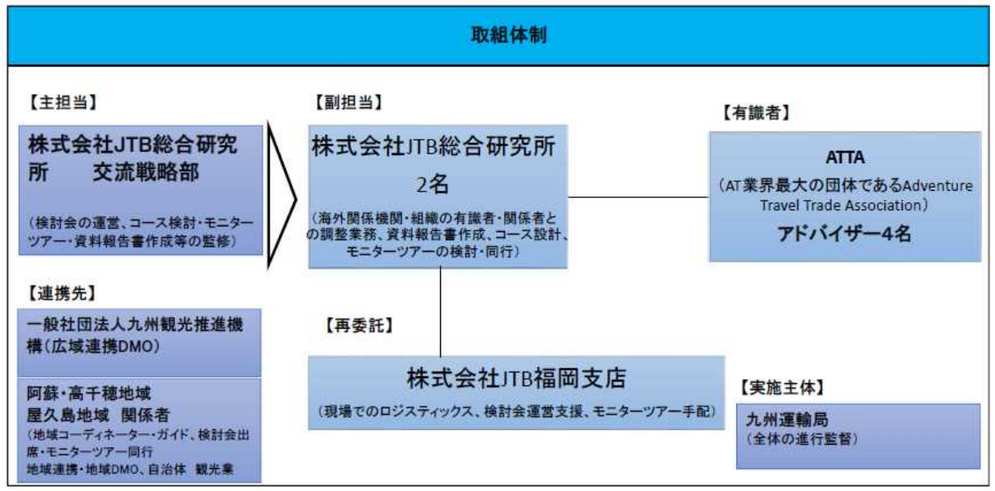


図 3　体制図

1.6　費用

本事業にかかった経費を以下に示す。

表 2　事業費用

項目	費目	小計
AT コンテンツの企画開発および地域コーディネーターの育成	委託費	4,420,000 円
AT 有識者招請による検証	委託費	4,875,000 円
その他直接経費	委託費	100,000 円
再委託費	委託費	4,000,000 円
諸経費、技術料	委託費	4,780,800 円
消費税		1,817,580 円
合計		19,993,380 円

2.　AT 商品造成

＜検討概要＞
各エリアでのポジショニング素案の検討をし、モニターツアー後にツアー改善のワークショップを実施。
＜得られた成果＞
・各エリアで AT の要素を含んだ九州ならではのストーリーを持った、体験価値を高めるコンテンツの新規開発及び既存アクティビティなどの磨き上げを行った。

2.1　コンテンツ造成会の実施概要

以下の日程において各地域それぞれコンテンツ造成会を実施した。

表 2　コンテンツ造成会実施例

	コンテンツ造成会日程			
	時間	場所	参加人数	テーマ
第 1 回（阿蘇・高千穂）	令和２年８月３日（月）14 時～17 時	阿蘇の司ビラパークホテル	20 人	・ セミナー「アドベンチャーツーリズムの概論とコンテンツの要諦」 ・ ワークショップ「各エリアでのポジショニング素案の検討」
第 1 回（屋久島）	令和２年８月４日（火）17 時半～20 時半	屋久島役場安房出張所	15 人	・ セミナー「アドベンチャーツーリズムの概論とコンテンツの要諦」 ・ ワークショップ「各エリアでのポジショニング素案の検討」
第 2 回（阿蘇・高千穂）	令和２年 12 月 14 日（月）14 時～17 時半	阿蘇の司ビラパークホテル	10 人	・ セミナー「ツアー実踏の事前準備、B 案の考え方、コーディネーター・スルーガイドの役割について」 ・ モニターツアーの行程振り返り ・ ツアー改善方針のワークショップ
第 2 回（屋久島）	令和２年 12 月 15 日（火）17 時～20 時	ZOOM	10 人	・ セミナー「ツアー実踏の事前準備、B 案の考え方、コーディネーター・スルーガイドの役割について」 ・ モニターツアーの行程振り返り ・ ツアー改善方針のワークショップ

2.2　磨き上げの方針

訪日外国人向けの磨き上げの方針は、コンテンツ造成会を通して、以下の２点に留意して磨き上げを行うこととした。

①１日を通して複数のコンテンツを体験していくことにより、旅行者が地域の自然や文化に対する理解や共感を得られるようなコンテンツの組み合わせやガイディングを検討すること。

②ATWS2021 での PSA の受入・販売を目指し、コンテンツやそれに含まれる体験の企画や品質確認などを丁寧に行い、品質を上げいくこと。

2.3　意見抽出と対応表

コンテンツ造成会の結果を踏まえ、コンテンツの方向性について検討した。以下に参考となった意見及び造成コンテンツの方向性について示す。

表 4　抽出された意見及び造成コンテンツの方向性（一例）

	施設名称	抽出意見（問題提起）	打ち手（課題、手段）
①	高千穂峡	マスツーリズムのロケーションになってしまっている場所であるが、自然現象の規模・内容共に見るべき価値があるスポットではある。	・高千穂峡の位置づけを、メインのスポットやハイライトなどではなく、驚きを助長させるため、朝食ついでや朝のコーヒーを飲むついでに良い景色を見に行こう！くらいの気持ちで行く場所という位置づけにする。 ・人が少ない早朝に行くことで、特別感とエリアの荘厳さを高めると、AT マーケットにも喜ばれる。（早起きは AT マーケットには問題なく受け入れられる）
②	かっぽ鶏・かっぽ酒のアウトドア体験（高千穂）	現状では竹を取るところはプロのガイドさんが担ってくれるため、ややインタラクティブ性が薄いため、一つのアクティビティとして高める余地がある。	ウォーキングの途中で竹の説明などを行いながら、なぜ高千穂地方で竹が多用されているのか、竹にどのような種類があり、その中でどの竹が一番適しているかなどの説明を行い、自ら竹を取ってくる行程を充実させることでアクティビティとしての要素が増す。かっぽ鶏用の器を作る際に、その用途をあえて明かさずにこれを後で使うから一生懸命作ってね、としてあえて謎

			を残しておいて、あとでその答え合わせをするようなアクティビティにするのも良いのではないか。 流れとしては、朝からウォーキングの道すがら竹の伐採→かっぽ鶏の体験までを繋がりを持たせることが出来ると良い体験になる。
③	カヤック/SUP（安房川）	体験することだけに偏り、何故そこでこの体験をするのか、そこがどんなところなのか、明確になっていない。またアクティブな AT 層にとっては、距離が短く、挑戦的ではない。	前後のコースの日程におけるコンテンツの位置づけをより明確にすることで、よりコンセプトとアクティビティの繋がりを体感してもらう。 （例：屋久島の歴史・文化・自然の概要を学んだ後に、水に飛び込みながら、周囲もしくは遠景の山々を見て、事後のコースへの期待感を高める等） また、可能であれば河口、海に出るなどしてより難易度を上げる。

3.　各エリア地域コーディネーターの育成

＜検討概要＞
・各エリアの地域コーディネーターを育成するために、（1）AT 商品造成のための検討会参加に加え、(2)それぞれの地域コーディネーター候補者を他方のエリアに派遣し、両エリアの良い点、悪い点を共有し、魅力相互向上を目指す。
＜得られた成果＞
・AT 商品造成のための検討会では、コンテンツ提供者等とのワークショップを行い AT の概念やその地域ならではの AT 旅行者に訴求するコンテンツについて学び、現地相互派遣の実踏研修では、有識者の意見を身近に受けながら、地域コーディネーターに必要なスキルを学んだ。

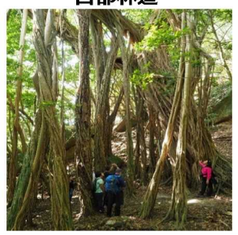
3.1　概要

（１）AT 商品造成のための検討会参加（各エリア全２回）
・実施内容は前掲の 2．AT 商品造成による。
（２）地域コーディネーター派遣
・第１回目は 11 月に屋久島エリアのモニターツアーが行われ、阿蘇・高千穂エリアのコーディネーター候補の(株)SMO 南小国の小寺氏が参加をした。
・第２回目は３月に阿蘇・高千穂エリアのモニターツアーが行われ、屋久島エリアコーディネーター候補の(株)シーサイドホテル屋久島の平田氏が参加をした。

〇第１回目　参加したモニターツアーの行程　屋久島エリア〇

日付	時間	概要
11 月 16 日		ホテルにて朝食
	8:30	ホテル発、車でいなか浜へ（ウミガメに関するレクチャー）
	9:30-12:30	**★西部林道（半山地区）の森ウォーキング**
	12:30	**★昼食（惑星寿司）**
		★大川の滝
	15:00	ホテル着
11 月 17 日		ホテルにて朝食
	9:00	ホテル発
	10：00-11：00	**★YAKUSHIMA BLESS にて箸作り体験**
	12：00-13：00	昼食
	14：00-15：00	**★本坊酒造見学**
	17:00	屋久島空港にて解散

西部林道



大川の滝

屋久杉ランド

〇第２回目　参加したモニターツアーの行程　阿蘇・高千穂エリア〇

日付	時間	概要
３月９日		ホテルにて朝食
	8:30	ホテル発、瀬の本へ（サイクリング準備）
	9:30-14:30	**★サイクリング（牧野道、林道など）**
	10:45-13:15	**★ごんべえ村にて田舎料理体験（調理及び昼食）**
	15:00-16:30	**★下城きのこ園（しいたけ栽培の現場視察及び試食）**
	17:00-17:30	コーディネーターインタビュー（きよらカァサにて）
	18:15	ホテル着
３月 10 日		ホテルにて朝食
	8:30-10:00	意見交換会（ホテル内会議室「秋月」にて）
	10:30	ホテルにて解散

サイクリング

田舎料理体験

しいたけ栽培の現場視察

3.2　参加した現地コーディネーター候補からのフィードバック

コーディネーター派遣の結果を以下に示す。

表 5

エリア	AT モデルコースについて、コーディネーター候補の意見（良かった点）
南小国・高千穂エリア→屋久島モデルコース	・お客様の興味関心がある場所（場面）で、敢えて時間を割くことで満足度も向上したと思います。特に窮屈になることなくスケジュール全体の中で調整出来ているように感じました。 ・ガイドの会田さんと山﨑さんは、ありのままの屋久島の自然や歴史をガイディングする中で、「こうあってほしい」「こうなってほしい」という意見を地域住民の想いとして伝えていることに感銘を受けました。 ・ガイドの会田さんは一般客と AT 客でガイディング内容を変えて説明していると伺いました。お客様の興味関心があるところを深堀りして案内できる知識、正しく伝えられる語学力とユーモアはツアーの満足度を向上させていると感じました。
屋久島エリア→南小国・高千穂モデルコース	・サイクリングコースはガイドさんも手厚く、とても楽しむことができた。また、ごんべえ村では人とのふれあいを感じることができ、人のキャラクターがコースの中に活かされていると感じた。
エリア	**AT モデルコースについて、コーディネーター候補の意見（改善点）**
南小国・高千穂エリア→屋久島モデルコース	・本坊酒造に行く理由をツアーコンセプトに沿った形でどのように伝えているか知りたいです。屋久島での暮らしを表現するのでしたら、屋久杉の産業としての現在地とハイクオリティブランドとして昇華した YAKUSHIMA BLESS を紹介するのが良いと感じました。 ・私が体験させていただいた内容には地域住民との交流がほとんどなく、屋久島の暮らしを「交流」という形で表現してほしかったです
屋久島エリア → 南小国・高千穂モデルコース	・ツアー中に出会った前田さん（畜産家）は、元々の行程の中には含まれていなかったので、突然の出会いが自身の WOW 体験に繋がった。このような WOW 体験が他にもあると良かったと思う。
エリア	**自身の地域のコーディネーター時に取り入れたい事項　他**
南小国・高千穂エリア→屋久島モデルコース	・ツアー冒頭に屋久島全体の地形・立地・歴史を伝えることで「なぜそこに行くのか」「なぜそれを伝えるのか」をお客様に理解していただくことが、ストーリー設計において大事な部分だと感じました。例えば、屋久島の地形は雨が降りやすく、その豊富な水により苔が覆い尽くす独特な自然形態と人の営みが成り立っている。など。 ・一日の体験の中で、見どころに「なぜ」を散りばめ、ワクワク感を継続させる流れがあり、阿蘇でのガイディングでも取り入れたいと感じました。 ・バス移動中や西部林道ウォーキング中に猿や鹿がたくさん出てきて、参加者も時間をかけて過ごし、「自然・人・動物」の関係がバランス良く成り立っている様子を見ることが出来ました。 ・西部林道は、自然の中にかつての人の暮らしの面影が残り（ここをもう少し掘り下げて話を聞きたかったです）、自然と共存する様子が見られ、最後に巨大岩に登ったところで、感動が最高点に達しました。
屋久島エリア → 南小国・高千穂モデルコース	・サイクリングが下りのコースがメインだったため、難易度も高くなく、非常に気持ちよく体験することができた。その後、昼食を経て、最後に下城きのこ園にてきのこに関する説明や、代々受け継がれてきた農園の話を聞き、明日への活力に繋がるような流れがとても良かった。 ・地元の色々な人と出会うことができるのが、阿蘇・高千穂のツアーの魅力であると感じた。屋久島ではなかなか人々の暮らしに入り込む余地がないので、とても新鮮であった。屋久島は、集落の話についてはあまり触れられてこなかったので、阿蘇・高千穂のコースを参考にすれば屋久島の中でも少しライトなコースができると感じた。

4.　モニターツアーの開催

＜検討概要＞
・AT 推進や PSA の実施にむけて、各エリアのコンテンツやコース設定等に関する現状の課題や改善案等の提案（コンサルティング）、地域コーディネーターの課題抽出をする。
＜得られた成果＞
・モニターツアーを行った結果、各エリアのコンテンツ、コース設定や地域コーディネーターに関する現状の課題、その改善案について、フィードバックをもらうことができた。阿蘇・高千穂エリア、屋久島エリアの AT コンテンツ、PSA コースの磨き上げに向けて多くの示唆を得ることができた。

4.1　ATTA 関係者の招請

11 月 8 日～17 日に以下の ATTA 関係者を招請し、専門的な観点より課題点を抽出した。

Dr. Mark Brazil　（マーク・ブラジル）<Japan Nature Guides 主催>
英国人。鳥類学者、博物学者、作家、ネイチャーガイド、Hokkaido Adventure Travel Association コンサルタント。1998 年より北海道在住。 1980 年代より新聞や雑誌の執筆、テレビ、ラジオ、講演会、特に国際的な企業のために自然・鳥類専門のリーダーとして日本、特に北海道の広報活動したり、欧米人旅行者に、鳥や哺乳類その他の野生生物を見せるガイドを行っている。近年は欧米、日本の大手旅行会社のコンサルタント、JICA 講師、ラグジュアリーツアーのツアーリーダー、ネイチャーツーリズム及びアドベンチャーツアーに関する講演など幅広く活動している。

Mr. Nick Szasz (ニック・サーズ) <FUKUOKA NOW 代表取締役>
カナダ、ウェスタンオンタリオ大学卒業。1993 年から海外からの外国人や観光客向けに福岡・九州の情報を制作・発信（紙媒体・オンライン）している。また、国内外の代理店やメディアの後方支援、マーケティング支援も行っている。2019 年度は、九州観光推進機構の AT 戦略策定事業に有識者として参加している。

11月8日	移動日・九州到着　神楽鑑賞
11月9日	霧立越え登山　BBQディナー
11月10日	オルレウォーキング・向山神社・かっぽ鶏ランチ・高千穂峡
11月11日	サイクリング・文化体験ツアー
11月12日	田子山展望台朝食・阿蘇山サイクリングツアー
11月13日	移動日・ATTAオンラインミーティング・牛床詣所参拝
11月14日	太忠岳登山
11月15日	安房川カヌー
11月16日	西部林道 森ウォーク・大川の滝見学
11月17日	ヤクスギランド散策・YAKUSHIMA BLESS文化体験・本坊酒造見学

かっぽ鶏・かっぽ酒のアウトドア体験（高千穂）

南小国サイクリング（南小国）

屋久杉を磨こう！　（屋久島）

カヤック/SUP（屋久島）

図 4　モニターツアーの様子

モニターツアー結果

モニターツアーより以下のような意見を収集し、各コンテンツの解決策を検討した。

表 4　抽出された意見及び造成コンテンツの解決策（一例）

コンテンツ名	モニター意見	解決策	改善実施有無（2021 年 3 月時点）
南小国サイクリング（南小国エリア）	サイクリングの行程ながら、立ち寄り場所の滞在時間が長いスポットも多くあり、サイクリング自体の時間が短くなってしまう問題がある。	顧客にニーズに応じて、サイクリングで立ち寄るごんべえ村での体験時間と内容を縮小して、サイクリング時間を増やしていき、アクティビティの楽しさを感じられる行程にしていく。	実施済み
コンテンツ名	モニター意見	解決策	改善実施有無（2021 年 3

			月時点）
屋久杉を磨こう！　（安房エリア）	身体を使うアクティビティではないため、何故それをするのかの位置づけをはっきりさせておきたい。	本体験が単なるモノづくりにとどまらず、ここまでのコースで体験した屋久杉に関する体験の総括であり、かつ最後の思い出作りといった位置づけであることを理解してもらうため、極力コースの後半や、時に雨天時代案であるプラン B 的位置づけで設定しておくとより望ましい。	実施済み

5.　事業成果

＜検討概要＞
・造成されたコンテンツについて、設定していたアウトプットおよびアウトカムについて比較する。
＜得られた成果＞
・アウトプットについては目標値を達成した。
・アウトカムについては、３月３１日時点で目標値を達成した。

5.1　事業目標に対する成果

アウトプットコンテンツ造成数３０の目標に対し３０となり達成した。

アウトカムは現在旅行商品企画数、地域コーディネーターの育成ともに達成した。

表 5　コンテンツ造成説明会実施例

	項目	目標	実績（３月31 日時点）
アウトプット	コンテンツ造成数	３０	３０
アウトカム	旅行商品企画数	8	9
アウトカム	地域コーディネーターの育成	2	2

5.2　造成されたコンテンツ

造成されたコンテンツの一例を以下に列挙する。

表 6　コンテンツ造成一覧(例)

NO	エリア	地域名	新規	パッション	コンテンツの名称	概要
1	五ヶ瀬・椎葉	宮崎県		Nature	九州山地の古道「霧立越」縦走トレッキング	霧立越の歴史と自然を考える会の代表を務める日本語ガイドとともに、標高 1,600mの五ヶ瀬ハイランドパークスキー場をスタートし、平安時代から馬の背で物資を運んだ「駄賃付け道」といわれる歴史ある古道を、ブナの巨木が茂る天然林や石灰岩地帯特有の希少植物などを眺めながら、向坂山・白岩山・見晴らしの岩などの山頂、標高 1,661mの扇山山頂を経由し、標高 1,330mの扇山松木登山口まで縦走するトレッキング。トレッキングの際にブナ林の重要性、それが破壊されている危機的状況、シカによる被害等を伝え、夜のバーベキューor お昼に鹿肉を食し、環境保全を伝える。
2	阿蘇	阿蘇		Nature	阿蘇山サイクリング	阿蘇の麓から中岳火口まで、電動アシスト付き自転車で登下山する。普段入ることができない牧野の中を走破できるのも魅力。
3	奥岳	屋久島		Nature	黒味岳登山	標高 1,360mの淀川登山口から、淀川の清流や高盤岳のトーフ岩、高層湿原の花之江河を通り、標高 1,831mの山頂までの往復約 9 時間の登山。 トイレ維持管理を伝えるため、実際に利用してもらい、オーバーツーリズムの問題について学んでもらう。道中で矮小化した屋久杉などを説明し、標高差による植生の変化を伝える。

黒味岳登山（鹿児島県屋久島町）

事業実施前に地域が抱えていた課題

・太忠岳に比べれば、屋久杉等の屋久島らしさはやや薄れるコースである。
・地元ガイドにとっては、雨の屋久島も魅力があるが、それが参加者に伝わっていない場合、最悪のコンディションで挑んだ登山とのイメージがついてしまう。

課題に向けた打ち手

・初回訪問者・比較的初心者の顧客に対しては黒味岳を選定した理由を明確に伝えておくこととした。
・雨が多く、地元の方でも予想がしづらい屋久島の天候の特徴をポジティブにとらえ、MICに雨の日の登山“Raining Mountain Climbing”などと記載することで、雨が降った方が、自然の深みを感じられ、より価値が高まるような見せ方を意識して事前にインフォメーションをするなど、お客様との理解の齟齬を事前に防いでいく。

コンテンツを活かした商品概要

○概要　標高1,360mの淀川登山口から、淀川の清流や高盤岳のトーフ岩、高層湿原の花之江河を通り、標高1,831mの山頂までの往復約9時間の登山。
トイレ維持管理を伝えるため、実際に利用してもらい、オーバーツーリズムの問題について学んでもらう。道中で矮小化した屋久杉などを説明し、標高差による植生の変化を伝える。

○料金　14,500円～（ガイド付）
○対応言語　日本語・英語
○所要時間　9時間

九州山地の古道「霧立越」縦走トレッキング（宮崎県五ヶ瀬町・椎葉村）

事業実施前に地域が抱えていた課題

・アドベンチャートラベラーに向けて、どのようなガイド内容が求められているか分からない。

課題に向けた打ち手

・アドベンチャートラベラー向けに、トレッキングの際にブナ林の重要性、それが破壊されている危機的状況、シカによる被害等を伝え、夜のバーベキューorお昼に鹿肉を食し、環境保全を伝える。

コンテンツを活かした商品概要

○概要　霧立越の歴史と自然を考える会の代表を務める日本語ガイドとともに、標高1,600mの五ヶ瀬ハイランドパークスキー場をスタートし、平安時代から馬の背で物資を運んだ「駄賃付け道」といわれる歴史ある古道を、ブナの巨木が茂る天然林や石灰岩地帯特有の希少植物などを眺めながら、向坂山・白岩山・見晴らしの岩などの山頂、標高1,661mの扇山山頂を経由し、標高1,330mの扇山松木登山口まで縦走するトレッキング。トレッキングの際にブナ林の重要性、それが破壊されている危機的状況、シカによる被害等を伝え、夜のバーベキューorお昼に鹿肉を食し、環境保全を伝える。

○料金　13,000円（フォレストピア宿泊料金含む）
○対応言語　日本語（通訳が必要）
○所要時間　8時間

図 5　造成したコンテンツ一例